

「金沢の地形(5)」～犀川雪見橋付近②～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

山岳地帯は、地形図の等高線だけで、地形の判読が可能である。等高線も密で、人工物も少ないからだ。しかし、都市化が進んだ平野部では、等高線そのものが少ない上に、様々な人工物の表記に邪魔されて、地形の判読が非常に難しい。近年の地理院地形図は、補助等高線(破線)をあまり使わないので、ゆるやかな傾斜の地形を、等高線だけで読み取るのは、不可能に近くなっている。

しかし、国土地理院の提供している「色別標高図」はすばらしい。非常にゆるやかな土地の起伏も、正確に表現してくれる。また、レイヤーで地形図と重ねる機能もついている。下図のような地形の立体感がわかる地図も、任意の縮尺で、短時間で得ることができる。これは、地形や地層の学習では、大いに威力を発揮する。

犀川雪見橋付近の地形 作図: C.Tanaka / 2015



A地点(犀川沖積地)の標高=36.2m B地点(寺町段丘)の標高=60.8m 比高=24.6m
「あ」=沖積地(犀川沖積地) 「い-①」=ごく狭い下位段丘面(仮称・平和町段丘)
「い-②」=下位段丘面(笠舞段丘) 「う」は中位段丘面(寺町段丘)

図をよく見てみよう。犀川沖積地と寺町段丘面の間には、比高25m規模の段丘崖が「そびえて」いる。この傾斜だと、自動車の直登は不可能である。道路造成には、段丘崖を斜めに上るか、切通し緩斜面を造るか、トンネルを掘るしかない。(この図の更に南側に切通し+トンネルがある) 実際に、直登している道は1本もない。

この段丘崖を実際にそばで観察すれば、いろいろな発見があるだろう。崖下の道を歩けば、寺町段丘の断面(上部の段丘礫層と、その下の砂岩や泥岩の層)の露頭があるかも知れない。段丘崖の全貌を見るには、周囲に障害物のない、雪見橋の上が一番いいだろう。明日は段丘崖近くの道と、雪見橋を歩いてみよう。(つづく)